

科目名	担当教員名	授業形態	単位数	資格	大学 DP	学科 DP	学習成果
国際関係論	三瀬 貴弘	講義	2		4	2	1, 2, 3, 4
授業概要 授業目的	国際関係論は、世界情勢を政治経済だけでなく文化歴史から幅広く分析する、学際的かつ身近な学問である。講義では、隣接学問領域の研究成果を取り入れつつ、現実の国際問題について歴史を踏まえた分析と、現実をよりよく理解するツールとしての理論を勉強し、それらを元に、IPE（国際政治経済学）が冷戦後の国際秩序形成に与えた影響、ならびに日米関係の実態について考察する。詳細なレジュメを配布し講義する形式であるが、面白おかしい問題に取り組む「頭の体操」や、速記のスピードを競う「速記バトル」、居眠り防止のために突然クイズを出す「〇突クイズ」など、受講生が作業をする時間を設け、退屈させない授業を心がける。						
到達目標	①国際関係の歴史・現実・理論に関連した基礎知識を習得する。 ②冷戦後の日米関係のあり方について歴史的・理論的背景も含めて説明できる。						
回	学習内容						
1	オリエンテーション（日本外交における「独自性」をどのように評価するか？）						
2	大相撲と国際関係論（番付表、インバウンド消費、移民、ナショナリズム）						
3	ドラゴンクエストと国際関係論（中印関係、クルド人、テロリズム、ドローン）						
4	日本の領土問題（尖閣・竹島・北方領土、カイロ宣言、サンフランシスコ講和条約、ダレスの恫喝）						
5	国際関係論の名著の検討（ケナン、キッシンジャー、ハンチントン、ギルピン）						
6	主権国家（「大航海時代」、対外主権、体内主権、ウェストファリア条約、ユトレヒト条約）						
7	国際関係論の誕生（ツキジデスの罠、帝国主義、第一次世界大戦、自衛戦争、大東亜共栄圏）						
8	リアリズム（ホッブズ、バランスオブパワー、国益、パワーポリティクス）						
9	リベラリズム（カント、安達峰一郎、貿易理論、民主主義平和論）						
10	リアリズムの隆盛（モーゲンソー、キューバ危機、世界終末時計、アリソン）						
11	リアリズムの衰退（オストロム、ゲーム論、シェリング、公共財）						
12	覇権安定論（ギルピン、覇権衰退論争、ソフトパワー、構造的権力）						
13	相互依存論（トランスナショナル関係論、レジーム論、コヘイン）						
14	IPE とは何か（バードン・シェアリング、湾岸戦争、日米政策協調）						
15	まとめ（第二次大戦後の日本外交、日米関係について）						
予習内容 復習内容	予習；新聞やテレビのニュース、ネット等を通じ、国際社会で今何が起きているかを知っておく。 復習；配布レジュメや資料を読み直すこと。						
教科書	テキストは使用しない。参考文献は、坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年						
成績評価	レポート100%。授業への積極的参加などを加点要素とする（3%以内）。 6回以上欠席した場合は、レポートの提出資格はありません。						
実務経験							
その他 特記事項	メリハリのある、面白くて楽しい講義を心がけます。学生を指名することは、絶対にしませんので、気軽に受講してください。授業を難しく感じた場合は要復習です。講義内容については、受講生の学習の進捗度などによって、適宜調整します。						